

Special Essay

切手と古文書

放射線医学講座

石橋 正敏

私の読書は、小学校の後半から切手に関する書物を探し読みふける日々であった。書物を読むという習慣は、切手収集に関わる文献・古文書・古地図を調べることから始まり、切手の鑑定および郵便史の研究に必要な知識を正確に得ることであった。

切手収集は、昭和39年の東京オリンピック切手発行に端を発する。白黒テレビが日本で普及し始めた頃であった。その後、大学に入り本格的に切手収集を始めた。時同じくして、郵便史の研究にも大変興味を持ちだした。その理由は、切手の歴史的背景は文献調査無くしてあり得ないからであった。明治4年4月20日(旧暦3月1日)に、前島密(天保6年出生)により郵便事業が始まった。当時、飛脚便を用いて、大阪から江戸まで、早飛脚で3日かかり、料金は35円(当時の一般人の初任給は8円)と高額であった。全国統一の郵便制度が始まれば、当然飛脚業者は廃業に追い込まれた。また、駕籠屋も飛脚便を運んでいた。しかし、彼は郵便事業を改革断行した。郵便制度は民から官へと移行し、一般庶民も利用出来る金額となった。また、前島は、廃業した飛脚業者に荷物などの運搬を勧め、現在の日本通運を作らせたのである。

最初の切手は、江戸末期の流れから手彫り職人による印刷により切手は製造された。龍48文、百文、二百文、五百文の4種類が作られ、次に桜切手が製造された。所が、明治政府により廃藩置県が施行されたが、消印(郵便印)は全国統一されず、不統一印を用いていた。当時の政府は、先進国に追いつくため、種々の産業の分野で高額な給与で日本に外国人を招聘し、その技術の指導を受けた。切手の世界では、イタリア人のエドワルド・キヨソネを招聘し、江戸末期から続いた未熟な印刷から精巧な西洋印刷へと変貌してきた。それが、旧小判切手の始まりである(写真1)。その後、現在の高度に進んだ印刷技術により製造された切手が広く使われている次第である。私の最大関心事は、明治初期の旧小判切手と郵便印の研究(郵便史の研究)である。郵便印は、前述したように不統一印を全国主要都市において、独自に郵便印を作製した。次に、主要都市において、大拇太印、小拇太印(写真2)が短期間に用いられるようになった。次に、現在の郵便印の原型である全国統一された二重丸印である。これの消印は、切手付き封書(専門用語でエンタイアという)で保存しなければならない。しかし、未だに不思議なのが、筑後・久留米の近郊に位置する“山家”である。山家は、明治時代でも長崎街道に抜ける重要な宿場であったため、大拇太印が存在

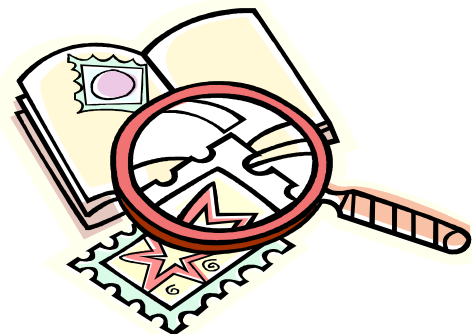
していると資料に記されていたが、現在まで発見されていない。昔、目にしたのは、すべて偽造であった。私が、いつも思い出すのが、旧日本陸軍出身の方の家に、お邪魔しますと、額縁に大事そうに納めていた“山家”の大拇太印の小判切手である。何故、郵便史の研究が大事かと言いますと、当時の明治政府の黎明期であった郵便事業の資料が殆ど消失したため、多くの研究者により古文書などによる実証を続けてきたのである。また、資料の消失は太平洋戦争における空襲による影響も甚大である。次に、関心を抱いているのが戦前の中国の青島（チンタオ）守備隊が用いた大正時代の軍事切手（田沢切手）付き封筒である。大正3年（1914年）の第一次世界大戦で、ドイツ帝国の東亜細亜拠点である青島（山東半島）を、神尾光臣大将率いる大日本帝国陸軍第18師団が攻略した。因みに、第18師団は、明治40年11月13日に、久留米で編成され菊兵団と呼称されていた。所が、長崎県の大村市からも多くの兵士が青島守備隊に参加したと聞き、大村まで調査に行ったが資料など一切見つからなかった。文献資料があったとしても、大村の大水害で甚大な被害を受けている可能性がある。また、久留米で当時の青島軍事切手付き封筒を探さなかったのは、昭和20年3月27日に東洋一と言われていた大刀洗飛行場がB-29の大編隊により大空襲を受け、次に8月11日に久留米地区の空襲があった。現在の、東町付近も焼け野原と化したと聞き取り調査でわかり、大村守備隊の調査をしたのである。

生涯かなわない夢は、嘉永6年(1853年)に浦和に来航したアメリカ東インド艦隊司令長官ペリー提督関連の古文書（写真3）から明治4年までの、英米仏の領事館郵便資料である。

鑑定には日頃から古文書などを基にした徹底した資料調査が必要であり、百年前の資料の発掘は重要である。また、その資料の保管・保存の方法を熟知することも重要である。

最後に、江戸時代から続いた飛脚便制度が明治4年に飛脚業者の猛反対を押し切って前島密により国営となり、その約百年後には小泉内閣により郵政民営化となったのは、歴史の皮肉というしかない。

（次ページより文中写真説明）



写真説明

写真1 明治14年旧小判2銭、長崎小拇太印使用、差し出し 長崎医学校



写真2 明治11年旧小判2銭 豊前国中津の記号番号印(イラ第5号)使用



写真3 アメリカ東インド艦隊司令長官ペリー提督の封書と命令書

